

「上越総合技術高校同窓会 関東支部の発足」

大綱目録 藤沢勝一郎（東本町四丁目出身）

平成十五年、県は合理化・少子化等を背景に上越市内にあった県立高田工業高校（以下「高工」）と県立直江津工業高校（以下「直工」）の二校を統合して高工の地に新たに「新潟県立上越総合技術高等学校」を発足させ、同時に各科も改称して機械工学科、メカトロニクス科、電子情報科、電気工学科、建築・デザイン科（二十年に新設）、環境土木科の六科体制とし現在に至っています。

今回、高工時代から現在に至る同窓会東京支部、関東支部発足について紹介します。

「高工同窓会東京支部」は、昭和四十四年四月一日に発足し、幾多の活動をしてきましたが、昭和五十年前後に活動が停止してしまいました。昭和五十四年に再発足した高工同窓会東京支部も、平成二

年の野球部甲子園出場時に数百万円の寄付金を集め、高工同窓会本部に送金する

など活発な同窓会活動が続けてきましたが、平成十五年頃のバブル崩壊時に再び活動が停止してしまいました。以来十年近くを経、このままの状態にしておくことは、六年後の二十八年に創立百周年を迎える伝統ある高工の関東在住OBとして忍びがたく、直工との統合がなった今、関東全域を単位とする「新潟県立上越総合技術高等学校同窓会関東支部」として二十二年内に再発足させ、活動の基本となる名簿の整備・作成、母校関係ニュース・会員情報等を内容とする会誌発行などの事業を進めることにより、会員相互の親睦を計り併せて母校の発展に寄与したいと計画しました。

計画の実行に当たっては、設立準備会、三回の発起人会等の会合を重ねつつ、再

発足趣意書、設立総会案内書などを作成しましたが、少子高齢化の時代の流れと共に考え方や個人情報的重要性など、発起人達の若かりし頃には思いもよらなかったようなことが法令化されたり規範になったりして、名簿等入手が困難であったり古いままであったりしていました。このため、活動上スムーズに欠けるところはありましたが、同窓会本部、Jネットからのご支援・ご協力を得ながら準備を進めました。

平成二十二年十一月十八日（木）、東京都台東区の新潟県人会館で、新潟県立上越総合技術高等学校同窓会関東支部（略称「上越高同窓会関東支部」）発足総会が開催され、出席者全員の賛同を得て発足しました。当日は会員四十二名の内半数の十九名が出席し、上越高同窓会本部から古川会長、小熊幹事長、上越高から真貝校長、舟見元教諭に来賓としてお出でいただきました。

総会は、古川会長、真貝校長からの祝辞をいただいた後、藤沢発起人から①ご来賓へのお礼、古川会長、真貝校長、舟見先生、金子重雄氏からご祝儀、同窓会本部から組織強化費をいただいたことへのお礼、②発起人達は、ボランティアあるいはこういうことが好きだから行っただけではなく、OBの1人として、い

つか誰かがやらなければならないことを実行したこと、③発足総会案内について、第一段階として東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県在住の昭和二十八〜四十年卒OBへ七百三十六通郵送したこと。結果は人会回答四十二人、内十九人から発足総会への出席回答、入会せず百三十四人、死亡者二十三人、転居先不明による返送三十九通、無回答四百九十八通であったこと、④高工同窓会名簿からの関東在住OBの抽出・整理、資料印刷、封筒宛名印刷・封入、郵送手続きや回答ハガキを受取人払いにしたこと等は、「ネット東京事務局が全面的に支援してくれた」によるものであり深く感謝しているとの報告がありました。

その後①会則改定（案）、②グループの登録等について（案）、③二十二年度事業計画（案）、④二十二年度予算（案）の説明があり、審議の結果、異議なく承認され、役員には次の方々が選出されました。

支部長 藤沢勝一郎（Jネット理事、Jネット運営委員会委員）

副支部長 木澤茂雄（Jネット会員）

幹事 岩井義一、仙田貞文、弓納持和男

会計監事 福田裕（Jネット監事）

顧問 安藤三郎

藤沢支部長から、予算執行に当っては、予算項目として計上していないものの、本日に至るまでの発起人会議等に要した交通費および郵便代等は、予算の許せる範囲内で支払いたいとの提案があつて承認されました。

この後、出席者の自己紹介と校旗を前にして記念撮影を行いました。

再発足後、現在まで次のような活動等をしてきました。

①二十三年四月二十日付けで、関東支部運営支援に要する事務補助等業務委託契約をＪネットと締結しました。

②二十三年五月二十八日、新潟県人会館で二十三年度関東支部総会を開催し、議案は全て原案通り承認されました。終了後会員五名と共に、Ｊネット総会、アトラクション、懇親会に参加しました。

③広報「関東支部だより」は、No.1からNo.3まで発行しました。

現在は未だ小さな組織ですが、残された群馬、栃木、茨城県在住ＯＢ等への入会案内を含め、今後とも着実な活動を行いつつ、所期の目的に向かって努力してまいります。

ここに至るまで、同窓会本部、Ｊネットからいただいた有形無形のご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。

